

令和 6 年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 7 年 1 月 28 日

学校法人光星学院
八戸学院第二しのめ幼稚園

1. 本園の教育目標

- 「明るく元気な子」
- 「心の豊かな子」
- 「自分の考えをもてる子」

2. 本園の特色

- (1) 体験や行事を通して学びの芽ばえを育てる表現活動
- (2) 自然体験を通して育てる喜びと食育活動
- (3) 八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部と連携した教育活動

3. 令和 6 年度重点目標の達成および取り組みの状況

重点目標

< 1 > 教育内容の充実

- 1. 法人内大学、短期大学部、高等学校等との連携を深め、園児の教育内容の充実を図る。
- 2. 行事を通じた体験学習、自然と人との関わりを大切にした体験学習の充実を図る。
- 3. 小学校との連携・接続プログラムを充実させ、計画的に実施する。

< 2 > 教職員の資質と専門性の向上を図る

- 1. 研修への参加、園内研修の充実を図る。

< 3 > 保護者・地域との連携を深める

- 1. 未就園児教室の活動を園児募集に繋げる。
- 2. 保護者との連携による活動を充実させる。
- 3. 地域とのつながりを意識した情報発信に努める。

< 4 > 教育環境の整備

- 1. 教室環境の整備（冷房機の設置、電子ピアノの設置等）。
- 2. 遊具、施設設備の整備。
- 3. ICT 機器およびインターネット環境の整備
（タブレット、ノートパソコンの設置、Wi-Fi 環境の整備等）
※令和 3 年度より継続的・段階的に整備する

達成度と取り組み状況

※評価（A…十分な成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

目標項目	評価	取り組み状況
<1> 教育内容の充実		
①法人内大学、・短期大学部、高等学校との連携を深め、園児の教育内容の充実を図る。	A	八戸学院大学健康医療学部看護学科看護実習、八戸学院大学短期大学部幼児保育学科教育実習、八戸学院光星高等学校保育福祉科保育コース保育実習の受け入れ、砂浜ゼミ（八戸学院大学短期大学部幼児保育学科行事）の見学、星の子シアター（八戸学院大学短期大学部幼児保育学科と系列 3 幼稚園の連携行事）、英語教室（大学：アンソニー先生・年 8 回）、造形教室（短期大学部：池田先生・年 6 回）、リトミック（短期大学部：中嶋先生ほか・年 10 回）、サッカー教室（大学：三田コーチほか：年 15 回）、運動遊び（短期大学部：澤井先生・年 6 回）を計画通りに実施することができた。また、短期大学部の学生による、行事のボランティア（運動会・おゆうぎ会）、ゼミ学生の訪問（加藤ゼミ）もあり、連携を深めた。
②行事を通じた体験学習、自然と人との関わりを大切にしたい体験学習の充実を図る。	A	・園外保育（五戸ひばり野公園：5 月 2 日）、親子遠足・交通安全教室（八戸公園こどもの森：5 月 24 日）、ブルーベリー狩り（南郷・根岸ファーム：7 月 22 日）、年長児お楽しみ会（7 月 19 日）、ボディペインティング（7 月 25 日）、三社大祭山車見学（DENZAI 川端重機興業さん前で新井田山車組の山車とお囃子の見学：8 月 2 日）、八戸市水産科学館マリエントで海の生き物に触れる（年少児：9 月 11 日、八戸市視聴覚センター児童科学館でプラネタリウム鑑賞（年中児：9 月 11 日）、秋祭り&バザー（9 月 14 日）、勤労感謝の日の訪問（業務班・園バス運転手さんへ年中児が訪問、近隣の DENZAI 川端重機興業さんへ年長児が訪問：11 月 20 日） ・園の畑で野菜を育てる（5 月 16 日：苗植え、9 月 3 日：じゃがいもと枝豆の収穫、10 月 24 日：さつまいもの収穫、10 月 24 日：試食、11 月 14 日：焼きいも会） ・もちつき会・餅花作り（12 月 18 日）、種差少年自然の家でそり遊び体験（1 月 30 日予定）、豆まき（2 月 3 日予定）、ひなまつり（3 月 3 日予定）等季節の遊びや行事を行った。

		・うさぎのみみちゃんと亀のみらいちゃん、熱帯魚の飼育を通じて生き物に親しみを持って命の大切さに気付くことや生き物への興味関心を育み、子ども同士の関係も深めることができた。
③ 小学校との連携・接続プログラムを充実させ、計画的に実施する。	B	・幼小保連携プログラムの作成にあたって、旭ヶ丘小学校と連携し、作成に着手した。 ・支援の必要な園児について、個別に情報共有を行った ・卒園後の就学予定先の全小学校に年長クラスの参観日の案内を出し、幼稚園での子どもの様子を参観していただき、その後の懇談会で情報共有を行う(2月5日・7日を予定)。 ・旭ヶ丘小学校との交流会(2/14に年長児が旭ヶ丘小学校を訪問)に参加。 ・交流会の実施が3学期のみになっているので、年間を通して段階的に実施できるよう、計画していきたい。
<2> 教職員の資質と専門性の向上を図る		
① 研修への参加、園内研修の充実を図る。	A	教員の資質向上を図ることを目的として、積極的に研修参加するように促した。その結果、年間で12の研修会に参加し、延べ31名が受講することができた。今年度は、各教職員の課題や経験等に応じた研修を受講することができ、幼稚園教諭としての人格と資質向上に努めた。園内研修は8回実施し、日頃の教育保育に生かすことができた。
<3> 保護者・地域との連携を深める		
① 未就園児教室の活動を園児募集に繋げる。	B	ポケット広場(未就園児教室)を月1回開催し、園児募集に繋げる活動をした。今年度も毎回参加者に好評であった。活動については、ホームページに掲載し、情報発信を定期的に実施した。担当職員が毎回、園児募集につながるような創意工夫を凝らした細やかな準備をしてくれた。参加者は、毎月それなりに集まっていたものの低年齢児が多く、園児募集につながる子どもが少なかったため、結果として入園する子どもの数は増えなかった。
② 保護者との連携による活動を充実させる。	A	親子遠足、秋祭り&バザー、おゆうぎ会など、保護者とともに活動する行事を例年通りに行うことができた。

③地域とのつながりを意識した情報発信に努める。	A	地域の方からお借りしている園舎前の畑で、野菜の栽培をし、苗植えや収穫などの様子をホームページに掲載した。水やりや作物の成長の様子などを頻繁に情報発信した。また、地域にある DENZAI 川端重機興業さんには昨年に引き続き、三社大祭新井田山車組の山車の見学に招待され、山車とお囃子の見学をすることができた(8月2日)。勤労感謝の日には、年長児が感謝のお花と色紙を持参するなど地域とのつながりを大切にした。未就園児教室の活動も地域とのつながりを意識して、ホームページに随時掲載し、情報発信に努めた。
<4> 教育環境の整備		
①教室環境の整備(冷房機の設置、電子ピアノの設置等)。	A	今年は、冷房機の設置とさすまたの購入、電子ピアノの交換を計画していたが、予算により、エアコンの設置のみとなった。うさぎ組とりす組の2教室にエアコンが設置された。そのことにより、猛暑での園内環境が整備され、快適な温度で過ごすことができるようになった。
② 遊具、施設設備の整備。	B	給食ワゴンのキャスター修理、ピアノ調律、駐車場の整備(アスファルトで穴埋め工事)、誘導灯バッテリー交換、エアコン2台・パネルスクリーン設置(補助金による)、大型ブロック(PTA バザーより寄贈)をホールに設置した。また、2年おきに行っている砂場の消毒は、昨年度2回実施したため(5月23日、9月7日(ナツサカ消毒))今年度は実施しなかった。
③ICT 機器およびインターネット環境の整備(タブレット、ノートパソコンの設置、Wi-Fi 環境の整備等)。	C	今年度もまだ整備が進んでいない。予算申請する予算がつかないため、現状で対応している。次年度に向けて検討中。

4. 総合的な評価

評 価	理 由
B	今年度掲げた重点目標については、全部を実行することができなかった。が、保護者アンケートの結果によると、すべての項目について昨年よりも高評価になっている。教職員の自己評価アンケートに関しては、「子育て支援」と「研修と研究」を除き、昨年より高評価となっている。「子育て支援」に関しては、昨年と同様だが、支援活動と相談機能を強化する必要があると感じている。「研修と研究」に関しては、接し方に関することと研修に関してもっと努力すべきと考えているという結果となっている。今後、改善していくべきこととして、意識し、教員間で認識の共有を図り、研鑽を積んでいきたい。

5. 今後取り組む課題

課 題	内 容
保育の計画および 幼小連携・接続	小学校との交流および連携を図り、接続プログラムの次年度関税を目指し、年間を通して計画的に実施できるよう教育課程を編成する。
教職員の資質 および専門性の向上	今後も各教職員の課題や経験等に応じた研修を受講するなど、幼稚園教諭としての人格と資質向上を図るようにしたい。特に、発達課題を抱える園児に対して必要な支援や働きかけ、適切な対応が講じられるよう、特別支援教育に関する研修を受講するようにしたい。
保護者・地域との 連携を深める	有意義な教育相談や子育て支援ができるよう、積極的に在園児の保護者との情報共有を図るとともに未就園児の保護者との連携を深め、園児募集につなげたい。また、卒園予定児の就学先（小学校）との連携と情報共有を図っていく。
園内施設・設備の 安全整備	園舎や園庭の設備・備品・教具・遊具の修繕・修理を行うとともに、園児の健康と安全確保を図るための点検を日頃から行うことを習慣づける。また、年間を通して感染症対策を行い、夏季・冬季の室内環境を整える。

6. 学校関係者評価委員会を終えて（委員からの講評）令和7年1月28日開催

今年度の目標は、ほぼ達成されており、取り組みは良好だったと思われる。保護者アンケートの結果がいずれの項目も昨年よりも高い評価となっていることは、大変好ましい。たくさんの行事を計画し、子どもたちにさまざまな体験をさせていることについて、先生方の努力が伺える。地域の方々のご理解とご協力をいただき、三社大祭の山車を見に行ったり、これから計画されているえんぶり鑑賞を行ったりなど、地域の行事にも触れる機会があってとても良いと思う。また、畑での苗植え・水やり・収穫を体験することで、野菜の生育を観察し、お友達と収穫した野菜を幼稚園で一緒に食べることで、野菜嫌いを克服することはとても微笑ましい。幼小連携は、今後も期待するところである。ICT教育については、今後、適宜取り入れていただき、子どもたちの教育・保育に活用していくことが望まれる。園児が少なくなってきたが、今後も幼稚園の特色を活かしながら、子どもたちを育て、送り出してほしい。